

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

I コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

GMOインターネットグループは、「すべての人にインターネット」という経営理念に基づき、新たなインターネットの文化・産業とお客様の笑顔・感動を創造し、社会と人々に貢献することを使命としております。また、当社グループの事業活動における基本原則を明らかにするため、創業の精神として掲げるスピリットベンチャー宣言を定款に明記いたしております。

こうしたなか、株主の皆様や債権者をはじめ、お客様、取引先様、従業員をはじめとする皆さまから信頼され、期待にお応えするために、「コーポレート・ガバナンス」を重視し、経営における健全性と透明性を高めつつ、機動的な経営意思決定と適正な運営に取組み、企業価値の継続的な向上を目指しております。

当社グループでは、各社の独立性を尊重しつつ、グループの行動規範を制定し、取締役、監査役、従業員は、法令、社会規範、倫理などについて継続的な意識の維持・向上を図っております。

また、当社の部門責任者およびグループ会社の役員から構成される幹部会議を原則毎週開催し、各事業の状況把握に加え、管理体制の確認や情報の共有などをグループ横断的に行うことで、グループガバナンスの強化に努めています。

当社の監査役総数は4名であり、うち3名を社外監査役とすることで客観性の確保に努め、監査役による十分な監視機能が発揮できる体制としています。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】 更新

【原則1-2-4 招集通知の英訳】

当社は、既に株主総会においてインターネットによる議決権行使を認めておりますが、議決権行使環境の更なる向上のため、平成28年3月開催の定時株主総会から、議決権電子行使プラットフォームの利用開始を検討しております。

また、当社は、現在、招集通知の英訳を実施しておりませんが、今後の当社の株主構成、必要となる費用等を踏まえて、引き続きその実施を検討してまいります。

【原則1-4 いわゆる政策保有株式】

当社が現在純投資目的以外の目的で保有している株式は、いずれも非上場会社の株式であり、同様の目的で上場会社の株式を保有しておりません。

【原則3-1(2) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針】

1. コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方については、本報告書の「コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報 1. 基本的な考え方」をご参照ください。

2. コーポレートガバナンスに関する基本方針については、平成28年3月開催の定時株主総会終了後を目途に策定すべく、取締役会において必要な検討を行っております。

3. 当社は、「すべての人にインターネット」というコーポレートキャッチのもと、新たなインターネットの文化・産業とお客様の笑顔・感動を創造し、社会と人々に貢献することを使命としております。

また、当社における創業の精神を表すGMOインターネットグループスピリットベンチャー宣言（「スピリットベンチャー宣言」）を定款に明記し、事業活動における基本原則としております。

そして、スピリットベンチャー宣言を踏まえ、株主の皆様、お客様、取引先様、債権者様、スタッフをはじめとする全てのステークホルダーの皆様から信頼され、期待にお応えするために、コーポレートガバナンスを重視し、経営における健全性と透明性を高めつつ、機動的な経営意思決定と適正なグループ運営に取り組み、企業価値の継続的な向上を目指しております。

また、成長スピードの速いインターネット市場においてはフラットな組織によるスピード経営が効率的であるという考えに基づき、「権限の分散」をグループ経営における基本的な考え方としております。この点、当社グループ各社の独立性を尊重しつつ、スピリットベンチャー宣言を当社グループの行動規範とし、取締役、監査役及びスタッフは、法令、社会規範及び倫理等について意識の継続的な維持・向上を図っております。

【原則3-1(5) 取締役・監査役候補の指名を行う際の、個々の選任・指名についての説明】

社外取締役候補者及び社外監査役候補者の選任理由については、以下の定時株主総会招集ご通知の参考書類をご参照ください。

・第24期定時株主総会招集ご通知

http://ir.gmo.jp/pdf/shareholder/shareholder_h270322_01.pdf

・第23期定時株主総会招集ご通知

http://ir.gmo.jp/pdf/shareholder/shareholder_h260323_01.pdf

・第21期定時株主総会招集ご通知

http://ir.gmo.jp/pdf/shareholder/shareholder_h230325_01.pdf

その他の取締役候補者及び監査役候補者の選任理由についても、平成28年3月開催の定時株主総会から、定時株主総会招集ご通知の参考書

類に記載する予定です。

【補充原則 4-1-2 中期経営計画】【原則5-2 収益力・資本効率等に関する目標】

当社は、変化の激しいインターネット業界においては、中期経営計画の策定に工数をかけたとしても、その有用性には限界があること、また、仮に中期経営計画を策定したとしてもその数値目標の公表により、株主・投資家をかえってミスリードすることにつながる可能性が高いと考えるため、中期経営計画の策定・公表を行っておりません。

一方、当社は、単年度の経営計画と実績との差異について、取締役及び経営陣幹部で構成される幹部会において、毎週十分な分析と評価を行うモニタリング機能を有しております。この結果、高い実効性をもって経営計画を遂行し、企業の成長につなげております。

これらのモニタリングを通じて分析、対策を適宜行い、アクションプランまで落とし込んだ上で、翌年度の経営計画に反映し、これを決算説明会等の場で株主・投資家に説明することとしております。

【補充原則 4-1-3 最高経営責任者等の後継者計画の監督】

当社の取締役会は、現在、最高経営責任者等の後継者計画についての具体的な監督は行っておりません。しかし、当社は、誰が最高経営責任者等になったとしても、スピリットベンチャー宣言の原理原則に基づいた一定のルールと仕組みの下で、経営理念及び経営戦略を踏まえた自走式の会社経営及びグループ経営を推進しております。取締役会は、そのための考え方を議論した上で、文書化し、継承しており、これにより、最高経営責任者等の承継に関する取締役会の役割・責務を果たしていると考えております。最高経営責任者等の後継者計画についての監督を行う体制については、引き続き検討を行ってまいります。

【原則4-2-1 中長期的な業績と連動する報酬】

当社は、経営陣の報酬を、業績及び業績目標達成度等に連動した報酬制度に基づいて決定しており、持続的な成長に向けた健全なインセンティブ付けを図っております。現在、中長期的な業績と連動する報酬の割合や、現金報酬と自社株報酬の割合の設定は行っておりませんが、より適切なインセンティブ付けとしての経営陣の報酬のあり方については、引き続き検討を行ってまいります。

【原則4-8 独立社外取締役の有効な活用】【補充原則4-8-1 独立社外取締役による情報交換・認識共有】【補充原則4-8-2 経営陣との連絡・調整や監査役(会)との連携に係る体制整備】【原則4-9 独立社外取締役の独立性判断基準及び資質】【補充原則4-10-1 特に重要な事項に関する検討への独立社外取締役の適切な関与・助言】

当社においては、現在、取締役16名のうち1名が社外取締役として選任されております。当社は、当該社外取締役を独立役員として現在指定してはおりませんが、一般株主と利益相反を生じるおそれはなく、独立性の高い社外取締役であると考えております。

なお、当社は、機関設計については、現在、監査役会設置会社を選択しておりますが、取締役会の監督機能を充実させ、当社グループの更なる成長を図る観点から、監査等委員会設置会社への移行を含めた検討を行っております。当社の機関設計についての考え方は、独立社外取締役の構成比率(【原則4-8】)についての考え方も強く関係することから、引き続き検討を行ってまいります。

それらの検討結果を踏まえて、独立社外取締役について、情報交換・認識共有の方法(【補充原則4-8-1】)、経営陣との連絡・調整や監査役(会)との連携に係る体制整備(【補充原則4-8-2】)、独立性判断基準の策定・開示(【原則4-9】)、特に重要な事項に関する検討に当たっての適切な関与・助言の方法(【補充原則4-10-1】)についても、検討を行ってまいります。

【補充原則4-11-3 取締役会全体の実効性についての分析・評価】

当社は、これまで、監査役会が中心となり、適時に取締役会の実効性についての分析・評価を実施し、取締役会の機能の向上に努めてまいりました。各取締役の自己評価の導入等を含めた分析・評価の方法及びその結果の概要の開示については、今後、さらに検討してまいります。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】更新

【原則1-7 関連当事者間の取引】

当社が、役員や主要株主等との間の取引(「関連当事者間取引」)を行う場合は、取締役等を構成員とする会議体が、当該取引の承認を取締役会に上程するか否かを決定していますが、必要に応じて社内委員会(社外監査役等を構成員とします。)又は第三者委員会(弁護士等を構成員とします。)の意見を取得する運用としております。取締役会において関連当事者間取引の承認決議を行う場合、当該取引に関連する取締役は特別利害関係人として決議に参加せず、定足数にも含まれておりません。また、関連当事者間取引の監視については、今後、取組み内容を開示してまいります。

【原則3-1 情報開示の充実】

(1)経営理念等

当社は、「日本を代表する総合インターネットグループへ」というコーポレートステートメントを掲げ、「インターネットの便利さ、楽しさ、可能性を、一人でも多くの方に届けたい」という思いのもと、1995年以来、インターネットに関するさまざまなサービスを展開しております。また、当社が創立以来培ってきた精神を表すスピリットベンチャー宣言を策定し、当社グループ全役職員の間で周知・共有を図っております。

スピリットベンチャー宣言については、当社のホームページをご参照ください。
(<https://www.gmo.jp/company-profile/concept/sv/>)

(2)コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針

上記【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】をご参照ください。

(3)経営陣幹部・取締役の報酬の決定方針と手続

経営陣幹部・取締役の報酬については、業績等に連動して自動的に定まる額を基準に、各経営陣幹部・取締役に対して每期設定される定量的・定性的な目標の達成度を多面的に評価した結果を加味した上で決定しております。なお、取締役の報酬決定については、株主総会から取締役会が委任を受けております。

(4)経営陣幹部の選任と取締役・監査役候補の指名方針と手続

経営陣幹部及び取締役の指名については、各人からの立候補を前提として、取締役会が、スピリットベンチャー宣言を体现できる人材であること、当社グループの全役職員を対象とした無記名式アンケートの結果及び経営陣幹部や取締役としての資質・態度・管理能力等を総合的に勘案した上で決定しております。

社外取締役及び監査役の指名については、取締役の協議により、経営に関する専門的で高い知見を有しているか、客観的・中立的な経営の監査機能を担うことができる人材であるか等の要素を総合的に勘案した上で決定しております。

(5)取締役・監査役候補の指名を行う際の、個々の選任・指名についての説明

社外取締役候補者及び社外監査役候補者の選任理由については、以下の定時株主総会招集ご通知の参考書類をご参照ください。

・第24期定時株主総会招集ご通知

http://ir.gmo.jp/pdf/shareholder/shareholder_h270322_01.pdf

・第23期定時株主総会招集ご通知

http://ir.gmo.jp/pdf/shareholder/shareholder_h260323_01.pdf

・第21期定時株主総会招集ご通知

http://ir.gmo.jp/pdf/shareholder/shareholder_h230325_01.pdf

その他の取締役候補者及び監査役候補者の選任理由についても、平成28年3月開催の定時株主総会から、定時株主総会招集ご通知の参考書類に記載する予定です。

【補充原則4-1-1 経営陣に対する委任の範囲の概要】

取締役会は、法令又は定款に定められた事項、株主総会決議により委任された事項その他当社グループの経営方針や経営戦略等の重要事項の意思決定、並びに、当社及び当社グループ全体の業務執行の監督を行っております。

取締役会への具体的な付議基準として、取締役会規程により、金額基準等を定めており、意思決定する範囲を明確化しております。取締役会が決定する事項以外の意思決定については、経営会議規程その他の社内規程に定めた基準に従い、経営会議、代表取締役等に委任しております。

【補充原則4-1-1-1 取締役会の知識・経験・能力のバランス、多様性及び規模に関する考え方】

当社は、社内取締役の選任に当たっては、当社独自の基準及び選定方法に基づき、当社グループ内から事業セグメント及び経営管理に関する専門的な知識を有する人材を結集しております。社外取締役の選任に当たっては、弁護士等の高い専門性を有する人材を選任することにより、取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、そして多様性のとれた構成を実現しております。

また、当社は、グループ経営のための知識・経験・能力のバランス及び多様性を確保しつつ、実質的な議論を行うための取締役の人数として、19名以内が適切であると考えており、その旨定款に定めております。なお、現在は、16名の取締役を選任しております。

もっとも、当社は、現在、監査等委員会設置会社への移行を含めた機関設計の検討を行っております。その検討結果も踏まえて、取締役会等の規模に関する考え方については、適切な構成が実現できるよう、引き続き検討してまいります。

【補充原則4-1-1-2 取締役・監査役の上場会社の役員の兼任状況】

当社グループは、上場企業9社を含む総合インターネットグループを形成しており、当社役員がグループ各社の役員を兼任することで適切なグループ連結経営を実現しております。

取締役が当社グループ以外の会社の役員を兼任することについては、取締役会が、当該会社の発展に寄与し、かつ、当社グループにとって有益であると判断した場合に限り認めることとしており、取締役が当社の業務に専念できる体制をとっております。

なお、社外取締役及び社外監査役を含む取締役及び監査役の他社での兼任状況は、株主総会招集ご通知の参考書類、事業報告や有価証券報告書を通じ、毎年開示を行っています。

定時株主総会招集ご通知の参考書類、事業報告 (<http://ir.gmo.jp/stock/shareholder/>)

有価証券報告書 (<http://ir.gmo.jp/financial/securities-report/>)

【補充原則4-1-4-2 取締役・監査役に対するトレーニングの方針】

当社の取締役・監査役に対するトレーニングの方針は、経営のプロフェッショナルたる各役員が各人の判断において、必要な知識の取得・能力の研鑽に努めることを原則としており、取締役会・経営会議における詳細な議論を通じて、知識・能力の深化・共有を図っております。

また、将来の取締役候補となる人材に対しては、取締役会及び経営会議への出席、議論への参加等を通じて、必要な知識を取得し、取締役に求められる役割と責務を理解するためのトレーニングの機会を提供しております。また、外部専門家を招聘し、各役員へのトレーニングを実施しております。

【原則5-1 株主との建設的な対話に関する方針】

(1) 基本的な考え方

当社は、持続的な成長・中長期的な企業価値の向上のためには、株主・投資家との間で継続的かつ建設的な対話を実施し、当社の状況について経営トップの理解と資本市場からの理解との間にギャップを作らないことが重要と考えております。

かかる対話の実現のため、IR担当取締役（現在は、取締役副社長）を中心としたIR体制を構築し、株主・投資家との対話の場を積極的に設けております。また、株主・投資家との対話に当たっては、経営トップが自らの言葉で説明を行ない、質疑応答に対しても経営トップ自らが回答することを基本方針としております。

(2) 株主との対話全般を統括する取締役の指定及び対話を補助する社内部門の有機的な連携のための方策

株主・投資家との対話については、IR担当取締役が統括するとともに、IR担当部署であるグループ広報・IR部を管掌し、日常的な部署間の連携を図っております。

(3) 個別面談以外の対話の手段

アナリスト・株主・投資家に対しては、決算説明会を四半期毎に開催し、経営トップ自らが説明を行ない、質疑応答に対しても経営トップ自らが回答することを基本方針としております。また、会場にお越しになれないアナリスト・株主・投資家に対しては、日本語でのリアルタイムでの動画ライブ配信、日本語・英語での録画配信を行っております。さらに、個人投資家に対しては、四半期毎に、動画のライブ配信を行ない、リアルタイムで質疑応答を行っております。

(4) フィードバックのための方策

IR担当取締役は、株主との対話を通じて把握された意見・懸念を、定期的に経営陣幹部に報告しております。

(5) インサイダー情報の管理に関する方策

株主との対話の際には、IRポリシーに基づき、情報の管理を適切に行い、インサイダー情報を伝達しないよう配慮しております。

IRポリシー (<http://ir.gmo.jp/irpolicy/>)

2. 資本構成

外国人株式保有比率 更新	30%以上
---------------------------	-------

【大株主の状況】 更新

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
株式会社熊谷正寿事務所	35,716,600	30.31
熊谷正寿	11,433,411	9.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,060,200	4.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,666,700	3.96
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	3,369,926	2.86
THE BANK OF NEW YORK 133524	2,409,200	2.04
SAJAP	1,751,700	1.48
MELLON BANK, N. A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS U S PENSION	1,306,700	1.10
THE CHASE MANHATTAN BANK 385036	1,197,800	1.01
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	1,004,700	0.85

支配株主(親会社を除く)の有無	――
親会社の有無	なし

補足説明

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 第一部
決算期	12 月
業種	情報・通信業
直前事業年度末における(連結)従業員数	1000人以上
直前事業年度における(連結)売上高	1000億円以上1兆円未満
直前事業年度末における連結子会社数	50社以上100社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

// 経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社
------	---------

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	19 名
定款上の取締役の任期	1 年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	16 名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	1 名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	0 名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)										
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
岩倉正和	弁護士											

※ 会社との関係についての選択項目

※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」

※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

a 上場会社又はその子会社の業務執行者

b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役

c 上場会社の兄弟会社の業務執行者

d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者

e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者

f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家

g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)

h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)

i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)

j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)

k その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
岩倉正和		——	弁護士である岩倉正和氏は、弁護士としての専門的見地と、これまでの経験から、当社の取締役の職務執行を監督するために適任であります。

指名委員会又は報酬委員会に相当する
任意の委員会の有無

なし

【監査役関係】

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役の員数	5 名
監査役の人数	4 名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況

当社の会計監査は、有限責任監査法人トーマツが監査を実施し、主要な子会社についても同監査法人が会計監査を行っております。監査役と会計監査人は、半期ごとに会合を開催しています。この他必要に応じ、随時意見交換を行っています。また、グループ内部監査室とは、常勤監査役が、原則毎月内部監査の状況などについて、報告および情報交換を図る連携体制を構築しております。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の人数	3名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	3名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
郡司掛孝	税理士													
小倉啓吾	公認会計士													
増田要	弁護士													

※ 会社との関係についての選択項目

※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」

※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
- c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- d 上場会社の親会社の監査役
- e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- i 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- j 上場会社の取引先(f、g及びhのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- m その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
郡司掛孝	○	——	税理士である郡司掛孝氏は、税理士としての専門的な見地と、これまでの経験から、意思決定の妥当性・適正性を確保するために適任であります。
小倉啓吾	○	——	公認会計士である小倉啓吾氏は、公認会計士としての専門的な見地と、これまでの経験から、意思決定の妥当性・適正性を確保するために適任であります。
増田要	○	——	弁護士である増田要氏は、弁護士としての専門的な見地と、これまでの経験から、意思決定の妥当性・適正性を確保するために適任であります。

【独立役員関係】

独立役員の人数	3名
---------	----

その他独立役員に関する事項

【インセンティブ関係】

実施していない

取締役へのインセンティブ付与に関する 施策の実施状況	
該当項目に関する補足説明	
ストックオプションとしての新株予約権の発行など、状況に応じて、業績向上へのインセンティブを高める施策について、引き続き検討してまいります。	
ストックオプションの付与対象者	
該当項目に関する補足説明	

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況	個別報酬の開示はしていない
該当項目に関する補足説明	
全取締役の総額を有価証券報告書・営業報告書(事業報告書)において、開示を行っております。	
報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無	あり
報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容	

平成26年12月期に取締役(13名)へ支払った報酬は、471,616千円であります。
 取締役の報酬決定については、各取締役が毎年、業績目標と企業価値向上に向けた取組み課題目標を設定し、その結果に応じて、取締役報酬の限度額内において、自動的に報酬が決定いたします。

【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】

社外取締役に対する情報伝達は他の取締役への情報伝達と同様に取締役会事務局(グループ総務部)が担当しており、社外監査役に対する情報伝達は監査役室が担当しております。
 必要な情報の伝達や、万が一重大な事項が発生した場合、速やかに連絡する体制を整えております。
 また、取締役会の連絡につきましては、会日の3日前までに招集通知および資料が届く体制となっております。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要)

- (1)取締役会
 取締役会では、会社の経営方針、経営戦略、重要な財産の取得および処分などの経営の重要事項の決定と、当社の各事業およびグループ会社の状況と業務執行の監督を行っております。また、当社グループの機動的な経営を実現し、競争力を維持・強化するために、経営会議を設け、取締役会の意思決定を要する事項の事前審査を行うと共に、取締役会から委譲された権限の範囲内で当社およびグループ各社に関する重要事項の決定を行っております。
- (2)取締役の指名
 取締役の指名ならびに報酬決定などについては、各取締役の担当事業部門を明確にしており、各期の業績に対する経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年と定めています。
 また、取締役の指名については、目標達成評価だけでなく、取締役、監査役、当社幹部社員、グループ会社役員などの関係者による無記名式360度評価アンケートを実施し、取締役としての資質、態度、管理能力などの多面的な評価も実施し、これらの評価結果を総合的に勘案し、選任しています。
- (3)監査役会
 各監査役は、法令が定める権限を行使するとともに、各監査役が業務執行の全般にわたり、方針、計画、手続の妥当性や業務実施の有効性、法令遵守状況等につき、取締役会および経営会議への出席、重要な書類の閲覧、グループ会社の調査等を通じた監査を行い、監査役会に報告しております。監査役監査を補佐する為に、監査役直属の監査役室を設置し、社長直属のグループ内部監査室や会計監査人と連携を取り、監査体制を強化しております。
 また、監査役会は、会計監査人から監査の方法と結果につき報告を受けるとともに、グループ内部監査室の監査方法と結果についても報告を受けております。
- (4)グループ内部監査室
 当社は、社長直属の組織としてグループ内部監査室を設置しており、当社ならびグループ会社について、継続的な内部監査を行っております。グループ内部監査室は、業務全体にわたる内部監査を実施し、業務の改善に向け具体的助言、勧告を行っております。
- (5)会計監査人
 当社は、金融商品取引法に基づく会計監査契約を有限責任監査法人トーマツと締結しています。平成26年12月期において業務を執行した公認会計士の氏名は次のとおりであります。
 指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 松野雄一郎
 指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 岩村 篤

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づき、ガバナンス体制を構築しております。

なお、現状は、当社の監査役は4名のうち3名が社外監査役であり、独立・公正な立場で取締役の職務執行に対する監査を行なっております。

また、当社の常勤監査役は、定期的に代表取締役との意見交換会を実施しており、経営の監視について十分に機能する体制が整っていると判断しております。

///株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況

	補足説明
集中日を回避した株主総会の設定	12月決算であるため、3月の株主総会となっており、6月の総会集中日は回避されています。また、株主様に参加していただきやすいように、株主総会開催日を日曜日に設けています。
その他	株主総会では、当社グループサービスの特別割引チケットやオリジナルグッズなどの来場特典を用意しております。 また、ご家族で来場いただくために、託児所を開設しています。 招集通知状では、わかりやすいように、図や写真などを多く挿入しています。また、サイズもコンパクトにし、カラー印刷などにも取り組んでおります。

2. IRに関する活動状況

	補足説明	代表者自身による説明の有無
ディスクロージャーポリシーの作成・公表	IRの専用ホームページにて公表しております。 http://ir.gmo.jp/irpolicy/	
個人投資家向けに定期的説明会を開催	原則四半期毎に、オンラインによる説明会を実施しております。 http://ir.gmo.jp/individual/online-retail_investor/	あり
アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催	四半期毎にアナリスト・機関投資家向けの説明会を実施しております。また、個別ミーティングも実施しております。	あり
IR資料のホームページ掲載	IR活動に合わせて、随時更新しております。	
IRに関する部署(担当者)の設置	グループ広報・IR部を設定しております	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	当社では、「コンプライアンス要綱」を設け、倫理、法令、社会的規範を踏まえて、よりよき社会人、よりよき企業人として、誠実且つ適切な行動を執るための指針を明示しております。また、「情報安全十ヶ条」、「コンプライアンス十ヶ条」を作成し、携帯するようしております。また、「グループ法務部」ならびに「グループ会社支援室」をコンプライアンスに関する研修や注意喚起を実施し、不正行為等の予防、早期発見および自浄作用の実効性を図り、コンプライアンス経営の強化に取り組んでいます。万一、不正行為を発見した場合に備え、ヘルプライン制度を設け、相談・通報体制を運用しています。
ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定	当社では株主様、投資家様、お客様、従業員をはじめとする皆さまに対し、迅速で公平、かつ正確でわかりやすい企業情報の発信に努めております。一部の特定の方に対しのみ、特定の情報を提供するようなことはありません。

内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

1. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社では、文書管理規程および情報セキュリティポリシーに基づき、取締役の職務の執行に係る情報を文書または電磁的情報により電磁的に記録し、文書管理規程に定める保管場所に、文書の分類ごとに同じく同規程に定められた期間保存することにより適切な管理および保管を行います。

監査役およびグループ内部監査室は、その権限において、文書等の閲覧および謄写を行うことができます。

2. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社では、リスク管理に関する規定を制定し、各種取引から発生する損失の危険を最小限にすべく対応しています。

また、当社では、取締役を構成員（監査役は任意出席）として、会社の取締役会の委嘱を受けた事項、その他経営に関する重要事項を協議または決議する経営会議を設置しており、当該会議体を原則毎週開催することにより、日々の取引の状況を詳細に把握し、会社に損害を及ぼす恐れのある事実の早期発見に努めております。

更に、「リスク管理委員会」を設置して、当該会議体を、原則、毎月開催することにより、当グループに損害を及ぼす恐れのあるリスク情報の早期発見と、その発見への対処に努めております。

3. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社では、各取締役の担当事業部門を明確にしており、各期の業績に対する経営責任を明確にするために、平成14年3月26日より、取締役の任期を1年と定め、毎年取締役一人ひとりの業績評価を厳格に行うことにより、その職務執行の効率性を向上させております。

定例の経営会議および幹部職会議を原則毎週開催し、経営の重要事項の決定や職務執行状況の把握を適時に行うことにより職務の効率性を常に検証しております。

4. 取締役および使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、培ってきたマインドを「スピリットベンチャー宣言」として共有して企業活動の原点として遂行し、また、「コンプライアンス要綱」を制定し法令・社会倫理を遵守し、コンプライアンスの体制の確立を確保します。

経営意思決定ならびに職務執行の報告の場である取締役会および経営会議においては、全ての議題に監査役の意見を求め、適法性の確認を行っております。

従業員に対しては、「コンプライアンス研修会」を開催し、また、「GMOヘルプライン制度」を設け、相談・通報体制を運用し、不正行為等の予防、早期発見及び自浄作用の実効性を図り、会社のコンプライアンス経営の強化に取り組んでいます。

さらに、「グループ内部監査室」は、業務執行が法令・定款等に適合しているかについて監査を実施しております。

5. 当社並びに当社子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社では、当社企業グループ全社の社長を含めた、幹部職会議を原則毎週開催し、当社企業グループ各社の経営活動の成果等を把握し、予算統制を的確に行っています。

当社企業グループ各社には、当社より取締役若しくは監査役を一定数派遣し、業務執行の状況について常時把握し、関係会社管理規程に定める一定の重要な意思決定事項については、予め当社取締役会または経営会議に報告することにより、企業集団全体としての業務の適正性を確保しています。

また、グループ各社にコンプライアンスについて指導を行い、不正行為等の予防、早期発見および自浄作用の実効性を図り、グループ全体としてのコンプライアンス経営の強化に取り組んでいます。

さらに、「グループ内部監査室」を設置し、当社企業グループ各社への業務執行、管理状況についての内部監査を行い、業務の適正を確保する体制を構築しています。

なお、前記「リスク管理委員会」が、原則、四半期に1回、グループのリスク管理状況について取締役会へ報告することにより、更なる業務の適正を確保するよう努めております。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

現在当社では、監査役の求めに応じて、監査役の職務を補佐する専任の組織として「監査役室」を設置し、必要な監査役スタッフを配置しています。

7. 前号の使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

前号の使用人は、監査役に専属することとし、他の業務を一切兼務させないことにより、監査役の職務を補佐する使用人に対する指示の実効性を確保しています。

8. 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

当社では、監査役スタッフの独立性を確保するため、スタッフの任命、異動、人事考課等の人事権に係る事項の決定は、事前に常勤監査役の同意を得ることとします。

9. 取締役及び使用人が監査役会又は監査役に報告するための体制その他の監査役会又は監査役への報告に関する体制

当社では、監査役が取締役会とはもとより経営会議等重要な会議へ出席するとともに、重要な決裁書類等を閲覧し、必要に応じて取締役等に対する説明を求め、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握しています。

当社の取締役は、会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実があることを発見した場合には、法令に従い、速やかに監査役に報告することとしています。

また、監査役は、当社の会計監査人から会計監査ならびにグループ内部監査室から内部監査の内容について説明を受けるとともに、情報交換を図り連携体制を構築しています。

10. 子会社の取締役及び使用人が監査役会又は監査役に報告するための体制その他の監査役会又は監査役への報告に関する体制

当社では、子会社との間で、予め、子会社の取締役、監査役、使用人等またはこれらの者から報告を受けた者が、子会社の取締役会もしくは監査役を介してまたは直接に、当社の取締役、監査役、使用人等に報告することができる体制を整備することとしています。

11. 前2号の報告をしたものが当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制

(1) 監査役は、取締役又は使用人から得た情報について、第三者に対する報告義務を負わないこととします。

(2) 監査役は、報告した使用人の移動、人事評価及び懲戒等に関して、取締役はその理由の開示を求めることができるものとします。

12. 当該監査役の職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払または支出した費用等の償還、負担した債務の弁済を請求したときは、その費用等が監査役の職務の執行について生じたものでないことを証明できる場合を除き、これに応じるものとします。

13. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役と代表取締役は、相互の意思疎通を図るため、定期的に打ち合わせを設けています。
また、会計監査人ならびにグループ内部監査室とも定期的に打ち合わせを設けています。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

(1) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは、一切の関係、取引、交渉をせず、利用しないことを基本方針としています。また、反社会的勢力から不当要求を受けた場合には、組織全体で毅然とした態度で臨み、反社会的勢力による被害の防止に努めております。

(2) 反社会的勢力排除に向けた整備状況

当社は、平成20年7月に警視庁管内特殊暴力防止対策連合会に加盟しました。特防連にて、開催される研修等に参加し、情報収集を行うほか、顧問弁護士や警察署とも随時連絡を図ります。

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無	あり
-------------	----

該当項目に関する補足説明

当社は、平成18年3月13日開催の取締役会において、いわゆる「事前警告型」の買収防衛策の導入を決定し、平成18年3月以降、毎年開催される定時株主総会にて選任される取締役全員の一致により、本防衛策の採用継続を決定しております。

その目的は、大規模買付者による大規模買付行為について、株主様自身による適切な判断を行えるよう、これに必要かつ十分な情報を収集・提供し、また、これを評価・検証して当社取締役会としての意見を取りまとめて公表することが、株主共同の利益に資するものであると考えております。

また、本買収防衛策の具体的措置の発動その他については、取締役会による恣意的な判断を防止し、その判断の合理性・公平性を担保するために、特別委員会を設置し、特別委員会の勧告を最大限尊重して対抗措置を発動することを定めており、取締役会の地位の維持を目的とするものではないと考えおります。

なお、対応方針の内容の詳細につきましては、当社ホームページ(URL: <http://www.gmo.jp>)に掲載されている平成18年3月13日付プレスリリース「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針(買収防衛策)について」にて公表しておりますので、そちらをご参照ください。

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項